

# 拾って楽しむ 紅葉と落ち葉

森の休日1

平野隆久 / 写真 片桐啓子 / 文

山と溪谷社 2001年9月



秋も深まってきました。当初心配されたモミジも、寒い日が訪れるようになってやっと赤みを増してきたようです。そんな一日、見るだけでも楽しい『紅葉と落ち葉』を開いてみましょう。

紅葉、というと「かえるで」と呼ばれたあのモミジしか思い浮かばなかった私。もちろん日本の秋の代表選手です。でもこの本で「モミジのなかのモミジ」「かな？と思うモミジ」「らしくないモミジ」と分けて紹介しているように、えー!?これがモミジ?というようなモミジもあるのですね。でもどれも美しく紅葉(黄葉)し、タネの形を見ればやっぱりとわかるようです。

そして、紅葉=モミジだけではないのです。「どんぐりも拾える コナラの仲間」など、仲

間ごとにその紅葉(黄葉)やプラスアルファの楽しい情報を教えてくれます。美しい写真に、「あ、そういえばこれも紅葉するなあ」と今さらながら気づき、うれしくなります。「針葉樹の仲間」、「常緑樹の紅葉」などのページもあり、針葉樹や常緑樹も紅葉するの?とびっくりしてしまいました。秋の紅葉の世界が、自分の中でぐーんと広がったようです。

拾って楽しむというタイトル通り、拾ってきたおちばの楽しみ方も。今までも、真っ赤に紅葉したサクラ落ち葉などを見過ごすのがもったいなくて、本に挿しはさんだりしていました。でもそれは原形をきれいにとどめた葉っぱだけだったので。でも著者は「穴だらけの落ち葉こそ押し葉に最適」といいます。虫の作った造形の美しさ。これからは穴あき落ち葉、朽ちかけた落ち葉にも注目しましょう。

落ち葉を通して、生命への限りないとおしみを感じる本です。